

【 復活のトロパリ 第4調 】



しゅのおんなでしはふくかつのひかるおと
主女弟子復活の光音
づれをてんしよりききうけて、
天使聞き受
げんそよりのていざいをふるいすて、しと徒
原祖の定罪を振棄し徒
にほこりていえり、しはほろぼさに
誇日死滅
れ、ハリストカミはふくかつして、せかいに
神復活せ世界
おおいなるあわれみをたまえり。
大憐賜

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使徒等同座なるもの、忠
じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實神智の役者聖
なるしんにえられたるふえ、ハリストのあい
神撰笛愛
にみちたるうつわ、わがくにのこう
満器光
しようしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
照者亜使徒主教聖



よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾羊群た爲お及

ぜんせかいのたために、いのちをたもうせい
全世界た爲生ち命賜うせ聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給え。

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】



こうえいはちちとこいとせいしんにき
光栄父子と聖いしんにき
す、



せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾は初我國お於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストの
外來者知れども、ハリストの

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖かき流爾敵

きをぞくしんの子となし、かれらにか
屬神子となし、かれらにか

みのおんちょうをあたえ、ハリストのきょうかいをたて
 恩寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第4調 】

いまもいつもよよに、アミン。
 今 何 時 世 世
 わがきゅうせいしゅおよびしょくざいしゅはかみと
 我 救 世 主 及 贖 罪 主 神
 して、ちにうまれしものをかせより
 地 生 者 桎 梏
 ときて、はかよりふくかつせしめ、
 釋 墓 復 活
 ぢごくのもんをやぶりて、しゅさいとして
 地 獄 門 破 主 宰
 みっかめにふくかつしたまえり。
 三 日 目 復 活 給

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃^{さんえい}榮^{ことごと}せられ、^{てんぐん} 悉^{ふくはい} くの天^{ばんぶつ} 軍^むより伏^{ゆう}拜^{ゆう}せられ、萬物を無より有
 となし、人^{ひと}を爾^{なんぢ}の像^{ぞう}と肖^{しょう}とに依りて造り、爾^よが諸^{つく}の賜^{なんぢ}を以て之^{もろもろ}を飾^{たまもの}
 り、願^{ねが}う者^{もの}に智慧^{ちえ}と明悟^{めいご}とを與^{あた}え、罪^{つみ}を行^{おこな}う者^{もの}を棄^すてずして、其^{その}救^{すくい}の爲^{ため}に
 痛悔^{つうかい}を立て、我^た等卑^{われらいや}しくして不當^{ふとう}なる爾^{なんぢ}の諸^{しょう}僕^{ぼく}を、此^この時^{とき}に於^{おい}ても、爾^{なんぢ}が
 聖^{せい}なる祭壇^{さいだん}の光榮^{こうえい}の前^{まえ}に立ちて、爾^{なんぢ}に當然^{とうぜん}の伏拜^{ふくはい}讃榮^{さんえい}を奉^{たてまつ}るに堪^たうる
 者^{もの}となしし主^{しゅ}宰^{さい}よ、爾^{なんぢ}親^{みづか}ら我^{われ}等罪^{ざい}人^{にん}の口^{くち}よりも聖^{せい}三^{さん}の歌^{うた}を受け、爾^{なんぢ}の
 仁慈^{じんじ}を以^{もつ}て我^{われ}等に臨^{のぞ}み、我^{われ}等に凡^{およ}そ自由^{じゆう}と自由^{じゆう}ならざる罪^{つみ}を赦^{ゆる}し、我^わが靈^{たましい}
 と體^{からだ}とを聖^{せい}にし、我^{われ}等に生^{しょう}涯^{がい}善^{ぜん}功^{こう}を以^{もつ}て爾^{なんぢ}に務^{つと}むるを得^えせしめ給^{たま}え、聖^{せい}
 なる生^{しょう}神^{しん}女^{ぢよ}と古^こ世^{せい}より爾^{なんぢ}の喜^{よろこび}を爲^なしし諸^{しよ}聖^{せい}人^{じん}との祈禱^{きとう}に依^よりてなり、)

司祭) 蓋^{けだしわ}我^{かみ}が神^{なんぢ}よ、爾^{せい}は聖^{せい}なり、我^{われ}等光榮^{こうえい}を爾^{なんぢ}父^{ちち}と子^こと聖^{せい}神^{しん}に献^{けん}ず、今^{いま}も何^{いつ}時^{とき}も世^よ世^よ
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐
 よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐
 め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
 聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神
 に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世
 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇
 き 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を
 毅 聖 常 生 者 我 等
 あ わ れ め よ 。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第4調 】

司祭) つつし 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢ しん 爾の神にも、

司祭) えいち 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、なんぢのしわざはなんぞおおき、

し ゅ よ 、 なん ぢ の し わ ざ は なん ぞ お お き 、
 主 爾 工 業 何 大



誦經) 我が^わ靈^{たましい}よ、主^{しゅ}を讃^ほめ揚^あげよ、主^{しゅ}我が^わ神^{かみ}よ、爾^{なんぢ}は至^{いた}りて大^{おお}なり、



誦經) 主^{しゅ}よ、爾^{なんぢ}の工業^{しわざ}は何^{なん}ぞ多^{おお}き、



【 アポストロス
使徒經 166 端 コリント前書 16 章 13～24 節 】

司祭) 睿智^{えいち}、

誦經) 聖使徒^{せいしと}パウエルがコリント人^{じん}に達^{たつ}する前^{ぜん}書^{しよ}の讀^{よみ}、

司祭) 謹^{つつし}みて聽^きくべし、

誦經) 兄^{けいてい}弟^{なんぢ}よ、爾^{なんぢ}等^ら徹^{けい}醒^{せい}せよ、信^{しん}に立^たて、勇^{いさ}め、堅^{けん}固^ごなれ。凡^{およそ}の事^{こと}愛^{あい}を以^{もつ}て行^{おこな}え。兄

弟^{てい}よ、ステファン^{いえ}の家^ははアハイヤ^{はつもの}の初^{かつ}實^{おのれ}にして、且^{せいと}己^{つと}を聖徒^{ささ}に務^むむることに獻^{けん}げしは、

爾^{なんぢ}等^らの知^しる所^{ところ}なり、我^{われ}爾^{なんぢ}等^らに求^{もと}む、爾^{なんぢ}等^らも此^かくの如^{ごと}き者^{もの}、及^{およ}び凡^{およ}そ助^{じょ}力^{りよく}する者^{もの}

と、勤^{きんろう}勞^{もの}する者^{ふく}とに服^{われ}せよ。我^{われ}はステファン^{およ}、フォルトウナト^{きた}、及^{およ}びアハイク^{きた}の來^{きた}りしを喜^{よろこ}

ぶ、彼^{かれ}等^らは我^{われ}が爲^{ため}に爾^{なんぢ}等^らの缺^かくる所^{ところ}を補^{おぎな}えり、蓋^{けだし}彼^{かれ}等^らは我^{われ}と爾^{なんぢ}等^らとの心^{こころ}を安^{やす}

じたり。此^かくの如^{ごと}き者^{もの}を敬^{うやま}え。アシヤ^{しよきようかい}の諸^{なんぢ}教^{あん}會^とは爾^{およ}等^らの安^{あん}を問^とう。アキラ及^{およ}びプリス

キラは、其^{その}家^{いえ}の教^{きようかい}會^{とも}と偕^{しゅ}に、主^あに在^{せつ}りて切^{なんぢ}に爾^{あん}等^との安^{しゅう}を問^{けいてい}う。衆^{なんぢ}兄^{あん}弟^と爾^{あん}等^との安^と

を問^とう。爾^{なんぢ}等^ら聖^{せい}なる接^{せつ}吻^{ぶん}を以^{もつ}て互^{たがい}に安^{あん}を問^とえ。我^{われ}パウエル^て手^{なんぢ}づから爾^{あん}等^との安^とを問^とう。

主^{しゅ}イイス^{あい}ス ハリス^{もの}トスを愛^{あい}せざる者^{もの}は「アナフェマ」たるべし、「マラン、アフア」。願^{ねが}わくは

我^{われ}等^らの主^{しゅ}イイス^{おんちよう}ス ハリス^{なんぢ}トスの恩^{とも}寵^あは爾^わ等^{あい}と偕^わに在^{あい}らんことを。我^わが愛^{あい}もハリス^わトス イ

おい なんぢらしゅうじん とも あ
イススに於て 爾 等 衆 人と偕に在るなり、「アミン」。

(比較用 口語訳)

目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。いっさいのことを、愛をもって行いなさい。兄弟たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたが知っているように、ステパナの家はアカヤの初穂であって、彼らは身をもって聖徒に奉仕してくれた。どうか、このような人々と、またすべて彼らと共に働き共に労する人々とに、従ってほしい。わたしは、ステパナとポルトナトとアカイコとがきてくれたのを喜んでいる。彼らはあなたがたの足りない所を満たし、わたしの心とあなたがたの心とを、安らかにしてくれた。こうした人々は、重んじなければならない。アジアの諸教会から、あなたがたによろしく。アクラとプリスカとその家の教会から、主にあって心からよろしく。すべての兄弟たちから、よろしく。あなたがたも互に、きよい接吻をもってあいさつをかわしなさい。ここでパウロが、手ずからあいさつをするす。もし主を愛さない者があれば、のろわれよ。マラナ・タ (われらの主よ、きたりませ)。主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。わたしの愛が、キリスト・イエスにあって、あなたがた一同と共にあるように。

【 アリルイヤ 主日第4調 】

司祭) なんぢ へいあん
爾 に平安、

誦經) なんぢ しん
爾 の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) かみ なんぢ ほうざ よよ あ なんぢ くに けんべい せいちよく けんべい
神よ、 爾 の寶座は世世に在り、 爾 の國の權柄は正 直 の權柄なり、



誦經) なんぢ ぎ あい ふほう にく
爾 は義を愛し、不法を惡めり、



司祭) (黙誦：人^{ひと}を愛^{あい}する主^{しゅさい} 宰^わよ、我^わが心^{こころ}に神^{かみ}を知る智慧^しの 淨^{ちえ}き光^{いきぎよ}を輝^{ひかり}かし、我^わが思^し

念^{ねん}の目^めを啓^{ひら}きて、爾^{なんぢ}が福^{ふく}音^{いん}の 教^{おしえ}を悟^{さと}らしめ給^{たま}え、我^わが衷^{うち}に 爾^{なんぢ}の福^{ふく}たる 誠^{いましめ}

を畏^{おそ}る 畏^{おそれ}をも入^いれて、我^{われ}等^らが 悉^{ことごと}くの肉^{にく}體^{たい}の慾^{よく}を踏^ふみ、凡^{およ}そ 爾^{なんぢ}の 喜^{よろこ}ぶ

所^{ところ}を思^{おも}い且^かつ 行^{おこな}いて、屬^{ぞく}神^{しん}の生^{せい}活^{かつ}を過^すぐるを致^{いた}させ給^{たま}え、蓋^{けだし} ハリス^{かみ}トス神^{しん}

よ、 爾^{なんぢ}は我^わが 靈^{たましい}と 體^{からだ}との光^{こう} 照^{しょう}なり、我^{われ}等^ら 爾^{なんぢ}と 爾^{なんぢ}の無^む原^{げん}の父^{ちち}と至^し聖^{せい}至^し

善^{ぜん}にして生^{いのち}命^{ほどこ}を 施^{なんぢ}す 爾^{しん}の神^{こうえい}とに光^{けん} 榮^いを獻^{いま}ず、今^{いつ}も何^よ時^よも世^よ世^よに、ア^あミ^ん。)

【 エヴァンゲリオン 福 音 經 マトフェイ福音書87 端 21 章33～42 節 】

司祭) 睿^{えいち}智^{つし}、肅^たみて立^{せい}て聖^{ふく} 福^{いん} 音^{けい} 經^きを聴^{しゅう}くべし、衆^{じん} 人^{へい}に平^{あん} 安^{あん}、



司祭) マトフェイ傳^{でん}の聖^{せい} 福^{ふく} 音^{いん} 經^{けい}の讀^{よみ}、



司祭) 謹^{つし}みて聴^きくべし、主^{しゅ}は左^さの 譬^{たとえ}を設^{もう}けて曰^いえり、家^{かしゅ}主^ぶあり、葡^ぶ萄^{どう} 園^{えん}を植^うえ、之^{これ}に 籬^{まがき}を

めぐ 環^{そのうち}らし、其^{さか}中^{ぶね}に酒^ほ 榨^{もの}を掘^みり、塔^たを建^{これ}て、之^{えん}を園^{えん}丁^{てい}に託^{たく}して、他^た方^{ほう}に往^ゆけり。果^{みのり} 斯^{どき} 近^{ちか}

づきたれば、彼^{かれ}は其^{その}果^みを收^{おさ}めん爲^{ため}に、諸^{しよ} 僕^{ぼく}を園^{えん} 丁^{てい}に遣^{つか}ししに、園^{えん} 丁^{てい}は其^{その} 僕^{ぼく}を執^{とら}えて、

或^{ある} 者^{もの}を扑^うち、或^{ある} 者^{もの}を殺^{ころ}し、或^{ある} 者^{もの}を石^{いし}にて撃^うてり。復^{また}他^たの 僕^{ぼく}を先^{さき}より多^{おほ}く 遣^{つか}ししに、

之^{これ}にも是^かくの如^{ごと}く 行^{おこな}えり。遂^{つい}に 己^{おのれ}の子^こを彼^{かれ}等^らに 遣^{つか}して曰^いえり、我^わが子^こに愧^はぢんと。然^{しか}

れども、園^{えんていこ}丁^み子^{あいかた}を見て、相^い語^こりて曰^{よつぎ}えり、此^ゆれ嗣^{かれ}子^{ころ}なり、往^{そのしぎょう}きて、彼^とを殺^{すなわちかれ}して、其^{とら}嗣^{ぶどうえん}業^{そと}
 を取^ひらん。乃^い彼^{ころ}を執^{しか}えて、葡^{ぶどうえん}萄^{しゅきた}園^{しゅきた}の外^{しゅきた}に曳^{しゅきた}き出^{しゅきた}だして殺^{しゅきた}せり。然^{しゅきた}らば葡^{しゅきた}萄^{しゅきた}園^{しゅきた}の主^{しゅきた}來^{しゅきた}
 らん時^{とき}、何^{なに}をか此^この園^{えんてい}丁^{おこな}に 行^{かれらいわ}わん。彼^こ等^あ曰^{もの}く、此^なの惡^なしき者^{さけ}を情^{ほろぼ}なく滅^{ぶどうえん}し、葡^{ぶどうえん}萄^{しゅきた}園^{しゅきた}
 を以^{もつ}て他^たの園^{えんてい}丁^{すなわちとき}、即^{およ}時^{かれ}に及^みびて彼^{おさ}に果^{もの}を收^{たく}めん者^{かれら}に託^いせん。イイスス彼^い等^いに謂^いう、
 爾^{なんぢら}等^{せいしよ}は聖^{こうし}書^すに、工^{いし}師^{おくぐう}が棄^{しゅせき}てたる石^なは屋^こ隅^{しゅ}の首^な石^{ところ}と爲^{われ}れり、此^これ主^{しゅ}の爲^なす所^{ところ}にして、我^{われ}
 等^らの目^めに奇^き異^いなりとすと、云^いうを未^{いま}だ嘗^{かつ}て讀^よまざりしか。

(比較用 口語訳)

ある所に、ひとりの家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かきをめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。彼らはイエスに言った、「悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう」。イエスは彼らに言われた、「あなたがたは、聖書でまだ読んだことがないのか、『家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える』。



しゅよ、こ う え い はなんぢ に き し、こ う え い
 主 光 榮 爾 歸 光 榮
 はなんぢ に き 歸 す。
 爾 歸

※聖体礼儀③ 〜